

ソ連の貿易——日ソ貿易を中心に——

鈴木重靖

1. ソ連の外国貿易の特徴

ソ連の外国貿易を特徴づける条件にはいくつかあるが、その主たるものは第1に、地理的条件としてのその領土の広大性であり、第二に、経済制度としての社会主義経済であり、そして第三に、産業構造としての一定の重化学工業と、工業原料を中心とする一次産品部門の併存的発展である。

- (1) ソ連は数カ国あるいは数十カ国を含みうる事実上の多国家的国家であり、連邦内の共和国相互間の取引は、いわば隠された貿易である。したがってソ連の貿易は統計上にあらわれた貿易よりも事実上は高いとみななければならない。このことはまたソ連の貿易依存度が他の中小の国々よりも低くあらわれるということの意味する。国連統計にもとづいて推定された1975年のソ連の貿易依存度は輸出入平均して7.3%(国内総生産に対する比)で、ほぼアメリカのそれに等しい。これはアメリカを除く他の先進工業国のそれよりかなり低い。世界貿易にしめるソ連貿易の割合も7%前後に過ぎない。これはソ連の生産の世界経済にしめる地位からくらべればかなり小さいといわなければならない。

このような生産にくらべての貿易の相対的低水準というソ連の特性は上に述べた理由によるが、しかしソ連の貿易依存度は過去数年間上昇傾向にあり、また過去5年間の貿易の伸び率も2.8倍とかなり高くなっている。

いづれにしても未開発地域を含む広大な領土をもつということはソ連が貿易の大きな潜在力をもっているということだけは確かである。

- (2) ソ連が社会主義国であるということは貿易に国民経済計画とむすびついた計画性を要求し、また輸入を目的化し、輸出を手段化する傾向を生む。こ

のことは他の条件において等しければ、ソ連が貿易相手国として社会主義国を選択するという志向を生む。何故ならこの方が貿易の計画化が実行しやすいし、貿易収支の均衡化を達成し易いからである。輸出を重視する資本主義国との貿易はソ連の潜在的入超傾向をたえず生む。

ソ連の貿易相手国の多くが社会主義国であるということの主たる理由は上記の理由による。1976年のソ連の貿易相手国の55.6%は社会主義国となっている。しかしこの傾向は過去の実績からみるとむしろ低下傾向にある。反対に先進資本主義国とソ連との貿易の割合が増大しつつある。この理由は政治的条件を別とすれば、ソ連と先進資本主義国との国家間の分業の相補性あるいは協業条件が増大したこと、そしてこのために経済体制の類似性からくる経済的結合力が相対的に後退した——絶対的には前進したとはいえ——ことによる。

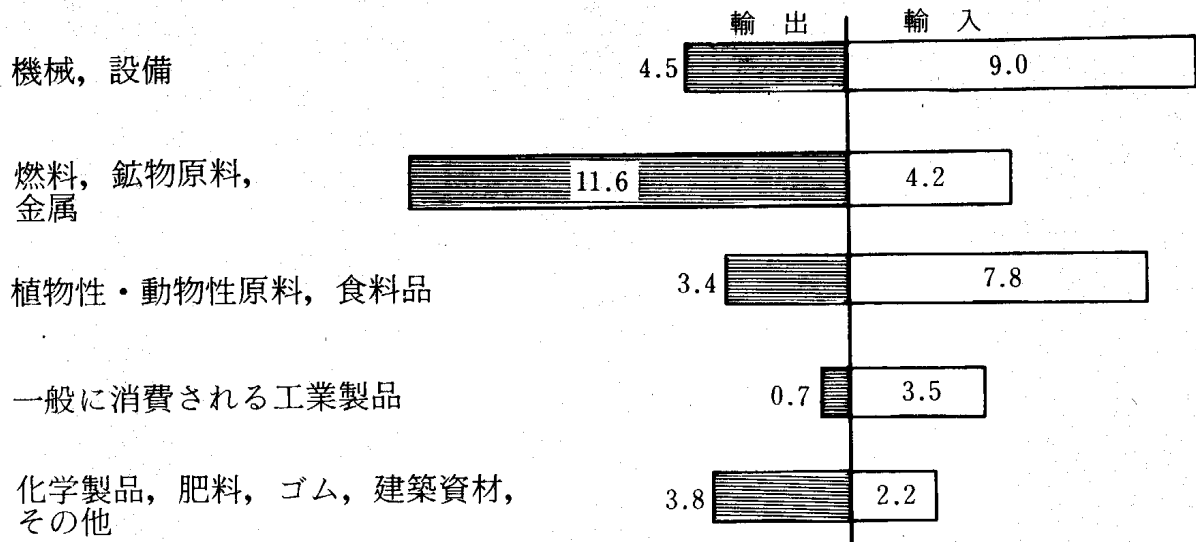
- (3) ソ連の領土の広大性とそれに結びつく資源の豊富さは、この国の一定の工業発展にもかかわらず、ソ連をして一面では原料資源の供給国たらしめると同時に、他面では工業品の輸出国たらしめている。つまりソ連は垂直型貿易の両面を同時に担当するとともに、水平型分業を発展させる条件をも備えているということである。

このような事情はソ連の貿易構造をやや複雑にしている。先進工業国に対しては原料品輸出—工業品輸入、後進諸国に対しては工業品輸出—原料・食料品輸入、中進諸国に対してはほぼその中間という貿易構造となり、全体としては第1図にみるように、原料輸出—工業品輸入という工業国としては特異の貿易型になっている。

このようなソ連の貿易のいわば二重構造は、貿易の他の側面、たとえば貿易収支や交易条件にも反映する。工業品に比べての一次産品の国際的低価格、先進国における原料節約型の工業化傾向などによって、先進資本主義国に対しては輸入超過・発展途上国や他の社会主義国に対しては輸出超過という傾向を生み、最近数年間は全体として輸入超過となっている。つまり貿易上の赤字が累積している。ソ連の交易条件も70年代に入って石油

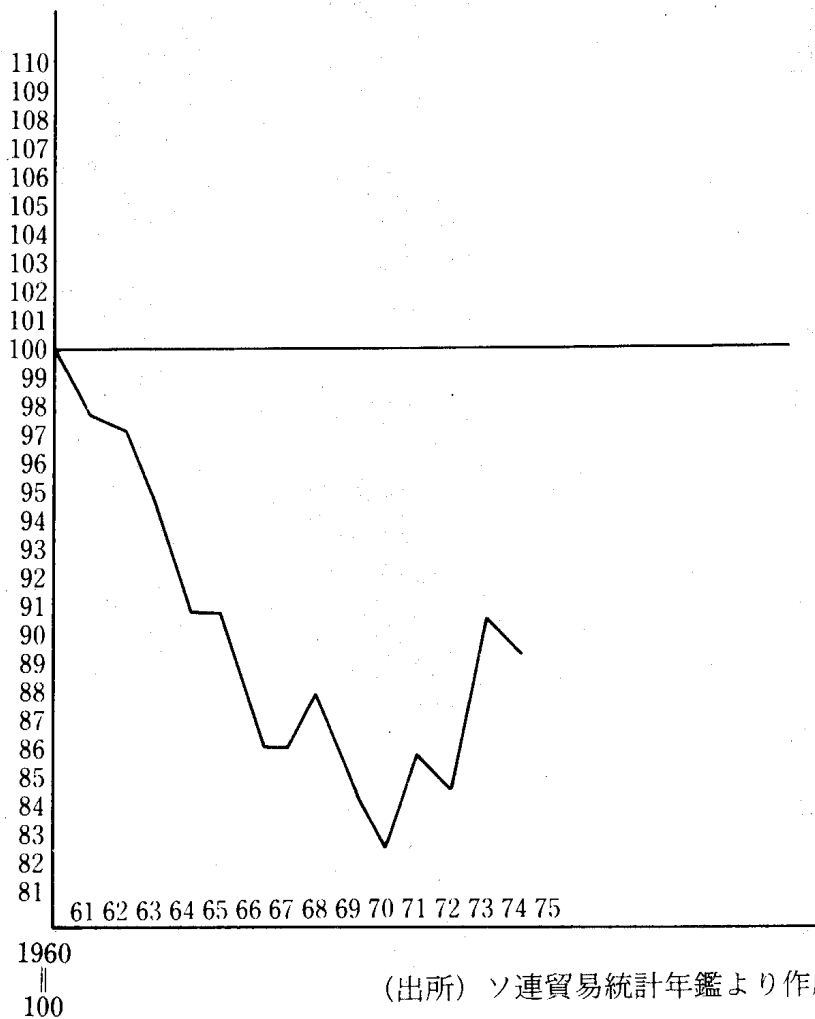
を中心とする原材料価格が上昇した結果70年以降は改善される傾向にあるけれども、60年代を通じて悪化傾向を辿っている（第2図）。統計的には明らかではないが全体の傾向としてソ連の交易条件は先進国に対しては悪く、後進国に対しては良いと推定される。

第1図 ソ連の輸出入商品構成、1975年(単位100万ルーブル)



(出所) コメコン統計年鑑, ソ連貿易統計年鑑

第2図 ソ連の交易条件の推移



(出所) ソ連貿易統計年鑑より作成

2. 日ソ貿易の現状と性格

- (1) 日ソ貿易が軌道に乗って発展しはじめたのは両国の国交回復後、通商条約・貿易支払協定が発効しはじめてからである。つまり1958年以降である。それまでは政治的条件によって、非経済的要因によって日ソ貿易は阻害されていたといえる。その後日ソ貿易は急速に発展し、当該年価額で計算して155倍となっている。1970年から1976年までをとってみても、ソ連貿易—3.1倍、日本貿易—3.5倍に対して日ソ貿易—4.2倍となっている。

ソ連貿易にしめる日ソ貿易の割合は3.7%、順位は8位、資本主義国では3位である。しかし輸出では木材、綿花、石炭、輸入では掘削機、クレーン、鋼材、人絹布などで日本はソ連貿易の首位ないし上位をしめている。

これに対し日本貿易にしめる日ソ貿易の割合は2.2%、順位は12位、社会主義国としては中国について2位である。商品別ではソ連への建設機械、加熱冷却機、衣類、鉄鋼、農業用機械の輸出は日本の輸出のうち1～2位をしめている。また綿花、石炭、木材、ダイヤモンド、アルミニウムの輸入は日本輸入のうち2～4位を占めている。

上記にみるように日ソ貿易の伸び率は大きい、なおソ連、日本それぞれの国の貿易にしめる地位は高くない。しかしいくつかの商品についてはそれぞれの国の貿易において主要な地位をしめている。全体としては日本からは工業品が、ソ連からは原料品がそれぞれ相手国に輸出されるという垂直型＝南北型の貿易構造となっている。日本側の資料によれば、日本からソ連への輸出の87.5%は重化学工業品であり、反対にソ連から日本への輸出の76.5%が原燃料となっている(以上76年実績)。

なお日本からの輸出のうちには最近ではプラント輸出が増えつつあり、設備類の20%はプラント輸出といわれ、これらのうちにはバンクローンと結びついているものもあり、いわゆるコンペンセーション条件の引合いも増えている。

- (2) 日ソ貿易の性格は日ソそれぞれの国の条件およびその条件の関聯によって基本的には規定される。勿論第三国の条件によっても影響されるが、こ

の条件はやはり間接的影響といえよう。

ソ連側については既に述べたから日本側について述べてみると、日本は資本主義国であり、しかもソ連の60分の1という小領土であり、資源の少ない国である。工業化されているという点を除けば、日本とソ連は殆ど共通点のない、むしろ相反する条件をもった国である。工業化にしても日本は高度に工業化し、もはや未開発地域がないほど開発されている。しかし広大なソ連は工業国とはいえ、なお多くの未開発、工業化可能地域が残っている。成長率にしてもここ数年不況が影響してやや渋っているとはいえ、日本は資本主義国としてはトップクラスの高成長を示し、むしろ社会主義国ソ連のそれをかなり凌いでいる。

このような両国の経済条件の相異にもかかわらず両国の貿易が急速に増大しつつある——絶対値そのものはなお小さいとはいえ——のは、一つには両国が地理的に隣接していること、少なくともシベリア東部、極東地域と日本とは近いことと、もう一つは、経済体制上の相違は別として、そのほかの両国の対象的経済条件が、かえって両国間の分業あるいは協業上の相補的性格を形成しているということである。日本の貿易構造は先進工業国としては珍しい高度に垂直型貿易であって、輸出の85%は重化学工業品であり、反対に輸入の65%が原燃料となっている。このような日本の垂直型貿易に先に述べたソ連貿易の二面性のうち一面、つまり逆垂直型貿易の側面が相補性をもつのである。

このような垂直型貿易の相補性がこれまでの日ソ貿易発展の基盤となってきたのであり、今後も当分の間これにもとづいて発展していくものと思われる。

3. 日ソ間貿易収支の不均衡

- (1) ソ連の貿易が先進工業国に対しては入超傾向にあると述べたが、これは最近の日ソ貿易にも当てはまる。日本側からみた日ソ貿易のバランスは1975～77年の3年間で21億ドルの出超となっている。しかし日ソ貿易の場合、70年代のはじめまではむしろ日本側の入超傾向がみられたのである。

したがって日ソ貿易に限っては、ソ連の入超化は最近のことである。

60年代において日本側がむしろ入超傾向であったのは、ココムその他の経済外的輸出制限を別とすれば、基本的には10%を越すような高成長と全体としての資本主義世界市場の好況である。前者は日本の対ソ原燃料の輸入を促進し、後者は日本の輸出を資本主義市場に向わせる条件となっている。

しかるに70年代後半からソ連側の入超へと逆転したのは、日本の経済成長が不況によって低下したことと、反面資本主義世界市場における不況が日本をして輸出市場を社会主義国たるソ連へ向寄せたのである。短期間の間の20億ドルを越すソ連の対日累積赤字は、このまま推移すれば日ソ貿易の発展を阻害することは間違いない。したがってこの累積赤字をなくすためにはソ連側が輸入を減らすか、日本側が輸入を増やすかしなければならない。

もっともソ連の場合、南アフリカに次ぐ産金国であるから金売却による決済という方法もないわけではないし、恐らくこの種の累積赤字の解決方法もとられていると推定されるが、この解決方法は一時的なものに過ぎず、根本的に貿易収支のアンバランスを解決する道ではない。また日本側から延べ払いや輸入ユーザンスの延長やバンクローンなど、ソ連の対日輸入を容易にするような金融的便宜をソ連にこれまで以上に与えるという方法もあるが、そしてこの方法は日ソ貿易を発展させる上で一般的には望しいものであるとしても、当面の日ソ貿易のアンバランスを解決することにはならない。単にそれを先に引延ばすことの助けになるに過ぎない。またソ連が70年代から採用しているコンペンセーション方式のようなプラント輸出の支払にその製品をあてるという方法を拡大するのも貿易収支バランス化を促進する一つの道かも知れない。しかしこれもプラント輸出に限られたものだし、あまりこの支払方法を拡大すると、一定財の輸出と他の一定財の輸入を結びつけるというバーター取引や輸出リンク制と似た欠陥、つまり輸入品の選択を窮屈なものにし、しいては貿易そのものの発展を阻害す

る恐れがある。

そこで日ソ貿易の収支のアンバランスを解決するためにソ連側の輸入を減らすということになれば、特にその対日輸入構成比の高いもの及び輸入増加率の高いものを減らす以外にないだろう。というと鉄鋼・一般機械・輸送機械などの重工業品と織物類などの繊維品の若干のものを減らすということにならざるをえないだろう(第1表)。しかし社会主義建設の道を歩んでいるソ連にとって、このような方法は望ましい方法ではないし、日本にとっても対ソ輸出を減らすというのは、消極的かつ好ましくない方法であろう。

したがって最も好ましい日ソ貿易のアンバランスを解決する方法は、日本が対ソ輸入を増加させるという方法になる。日本の対ソ輸入がどの程度増加するかは、第一に、日本の景気の回復の程度、第二に、それにとまなう需要増加の程度、そして第三に、この需要増加にソ連の輸出可能商品が品種・品質上また価格上どの程度対応しうるかということに依存する。日本の経済成長率は77年で5.1%、78年では政府予想で7%となっている。この政府予想が達成できるかどうか必ずしも明らかではないが、恐らくこれに近い成長率で早晩景気は回復するであろう。そしてそれに応じて輸入需要も増大するであろう。これまで不況にもかかわらず日本からの輸入が伸びていた非鉄金属・鉄鋼くず、木材・機械機器や石油などの鉱物性燃料などは生産の回復とともに対ソ輸入品としてこれまで以上に増大するであろう。また棉花などの繊維原料の輸入も消費の伸びに応じて増えるであろう(第2表)。

しかしながら経済成長が10%に近いような好況の場合は別として、予想されるような景気回復状況では輸入の伸びはそれほど期待できないだろう、というのは機械機器は別として、原燃料などの一次産品の所得弾力性は最近はあまり大きくないからである。したがって日本の対ソ輸入を増やすには、現行の極端な垂直型貿易をあらためて水平型貿易、つまりソ連からの工業品の輸入も増やすという方向にかえなければならない。垂直型貿

易そのものはなくせないとしても、これに水平型貿易を加味しなければならぬ。機械機器輸入の急増は、絶対値こそあまり大きくないがその方向を示しているといえる。ただこれらも品種・品質的に日本から大量受注されるようになるのは難しいだろう。当面は化学肥料などの化学品あたりが対象となるのではないか。いずれにしても重化学工業品の相互供給という日ソ間貿易を増加させることが重要な課題である。

価格面でみた場合はどうか。日本の輸入を促進する状況にあるだろうか。あるいは日ソ貿易のアンバランスを解決する方向にあるだろうか。これについては項目をあらためて論じてみよう。

4. 為替相場と価格

貿易にかんする価格は、これを二つの面からみることができる。一つは為替相場の面であり、他は個々の商品のコストあるいは価格という面である。

(1) 結論から先にいうと為替相場という面からみれば、日本は輸出に不利・輸入に有利となっている。つまり現在の日ソ貿易のアンバランスを解決する方向に向いている。理由は次のようである。日ソ貿易は通常ドル建てで行なわれているが、最近におけるドルの円に対する低下率がドルのルーブルに対する低下率よりも大きいから、結局ルーブルは円に対して低下されていることになる。そこでドルを媒介としてルーブルで表示された日本の商品はこれまでより高くあらわれ、円で表示されたソ連の商品は低くあらわれる。だから、日本側からみれば、輸入はしやすくなり、輸出はしにくくなる。反対に、ソ連側からみれば、輸出はしやすくなり、輸入はしにくくなるわけである。

スミソニアン通貨調整以後77年末までの対ドル相場の上昇率は、円が27.4%であるのに対して、ルーブルは15.8%と10%以上両者の間にひらきがある。特に78年に入ってから円相場の上昇率をみれば、最近の両者の開きは一層大きくなっていると想像される。

しかしこのようなドル・円・ルーブルのスミソニアン以後の相対価値関係の変化は、どの比率関係においてもっとも実勢（購買力平価）を反映し

たものであるかが明らかにされない限り、最終的には米・日・ソそれぞれの間の貿易均衡をもたらすところの均衡相場というわけにはいかない。つまりドルを媒介としての円対ルーブルの相場の、どれが実勢を反映しているかあるいは反映しうるかが明らかにされない限り、日ソ貿易のアンバランスは解決されない。しかし特別の人為的な貿易障害や投機的行為がないのに、恒常的な貿易収支のアンバランスが続いている限り、そしてこのアンバランスを反映して相場に変更が生じている限り、その現行相場は実勢を反映していないか、あるいは実勢に近づきつつあると判断できる。このことを考えれば、まだ円に対する投機がそれほど進行していない77年の相場は、少なくとも以前よりは実勢に近づいたとみてよいであろう。77年末の1ルーブル334円という相場は、スミソニアン以前の1ルーブル=400円という相場より実勢に近いことだけは間違いないであろう。

いづれにしてもルーブルが円に対して安くなったということは、このことにかんする限り、日ソ貿易のバランス化に、以前よりも役立っているといえることができる。

ドル・円・ルーブルの相場関係の時間的変化は、それぞれの通貨で表示した貿易額の変化率に相異をもたらす。1970年を100とした場合の1976年の日ソ貿易高指数は、ドル建てでは416.0、円建てでは342.6、ルーブル建てでは325.1となっている。ドル建てと円・ルーブル建てとはかなりの差があることがわかる。円建てとルーブル建てとは逆のようにあらわれているが、これは円相場がなおそれほど高くなかったことと、円建ての輸入には運賃部分が入っているため、その影響もあるのかも知れない。しかし75年はルーブル建ての方が大きくなっている——ルーブル建て294.7、円建て280.2——、77年は恐らくルーブル建ての方が大きくなっているものと思われる。

- (2) 個々の商品のコスト変化、あるいはこれらの商品に対する需給による価格変化をみる場合には、為替相場の変化による価格変化と、これらを区別する必要がある。

ドル・円・ルーブルの相場関係の変化は、個々の商品についても、通貨

の表示の仕方で価格の変化率が違うので注意を要する。第3表および第4表は日本側からの貿易はドル建てで、ソ連側からの貿易はルーブル建てであらわしたものを指数化したものである。これで見ればわかるように、ドル建てとルーブル建てとでは、個別商品の価格変化率に相違があらわれる。勿論ソ連にとってはルーブル建てで輸出入品の価格の騰落をみるべきである。

これで見れば、輸入品では合成繊維織物、ブリキなどの価格の上昇率がよく、輸出では石炭・原油の価格の上昇率が高くなっている。しかし1ルーブル当りの外貨手取り率では原油より石炭がよく、鉄鉱石より原木・綿花がよい。

日本の場合は、ドル建て価格と円建て価格とを対比する必要がある。全体としてドル建て価格より円建て価格が低くなっている。たとえば、ソ連より輸入の鉄鉱石のドル建て価格は、76年にくらべ77年において3.6%上昇しているが、円建て価格では逆に5.3%低下している。白金についてもドル建て2.1%上昇、円建て7.1%下落となっている。つまり輸入については日本の輸入業者は名目より実質は有利になっている。輸出についても、ドル建てより円建てが低くなっている。鋼管はドル建て5.5%上昇、円建て2.3%下落、ブリキはドル建て4.1%上昇、円建て4.6%下落となっている。輸出の場合は、輸出業者が名目より実質で損をしていることになる。第5表および第6表をみれば、メリヤス・クロセ編物を除いてすべて対前年下落で、それだけこれらの商品の対ソ輸出がむづかしくなっていることを意味する。しかし、輸入については、先にあげた鉄鉱石、白金のほかに鉄鋼くず、原料炭の価格が下落しており、これらのソ連からの輸入が有利となっている。ドル建て円建てともに下落した商品、つまり鉄鋼くずや原料炭のような商品の価格低下が本来の価格低下であり、ドル建て上昇、円建て下落の商品は、いわば、為替差損（あるいは為替差益）にほかならない。

だから個々の商品のコストの変化をみる場合には、為替差損や差益を捨象してみなければならない。為替相場の変化から独立した、比較優位や比

較劣位の商品を調べる簡単な方法は、個々の商品について個別的為替相場を調べ、この個別的為替相場が平均為替相場あるいは単一の市場為替相場より高いか低いかをみればよい。この方法で調べてみると、76年現在で、ソ連から日本への輸出品で、平均相場より高いものは綿花、低いものは石炭・原油・鉄鉱石・アルミニウム(1975)・原木であり、日本からソ連への輸出品で、平均相場より高いものは合成繊維・鋼管、低いものは毛糸・人絹糸・ブリキである。

この表の原表は第7表であるが、これで見れば、日本の対ソ輸出品では、合成繊維布・管が比較優位、毛糸・人絹糸・ブリキが比較劣位となっており、ソ連の対日輸出品では綿花以外はすべて比較優位、綿花のみが比較劣位となっている。

ただしこれは76年についてであって72～76年まで全部を通してみると、第7表でわかるようにいくらか変わってくる。日本の輸出品では合成繊維や管などの競争力が非常に強く、毛糸・人絹糸の競争力がやや弱く、ブリキは74年あたりから競争力が低下している。またソ連の輸出品では、鉄鉱石の競争力が非常に強く、原木・石炭・石油のそれが強く、アルミニウム、綿花のそれはあまり強くないかやや弱い。

上記の推論は、ドル対ルーブルの相場で比較しているので正確ではないが、ドルに一定数を乗じて円に直せばよいのだから、相対的關係はそれほど変わらないとみてよいであろう。が、いずれにしてもこの表では、機械類や金属製品の多くが入っていないので不十分なものである。しかし、この限られた表からみても、やはりソ連では原燃料が、日本では工業製品が、その価格競争力において優れていることだけはいえる。つまり日本とソ連との垂直型貿易構造が当分続くことだけは間違いなさそうである。

日ソ貿易の今後の課題は、貿易収支のアンバランスを解消し、その均衡的發展をはかること、また垂直型貿易とならんで水平型貿易＝工業品同士の貿易をいかに発展させるかということ、そしてこの報告では省略したが、通常の貿易外の資本協力や技術協力をさらに発展させていくということで

あろう。垂直型貿易がなお当分発展されなければならない以上、シベリア極東地域などソ連の未開発地域を日本の資本・技術協力によって開発し、見返りに開発された物資（石油・石炭・鉄鉱石その他の工業用原料）を日本がうけるという、いわゆるコンペンセーション方式の資本・技術協力は進むであろうし、また当分は発展させるべきであろう。

〔付記〕

本稿は昭和52年度文部省特定研究費による研究の一部である。

日本からソ連への輸出

(第1表)

	1 9 7 4			1 9 7 5		
	金額	構成比	対前年比	金額	構成比	対前年比
輸出総計	1,095,642	100.0	226.3	1,626,200	100.0	148.4
原燃料	9,537	0.9	305.5	16,025	1.0	168.0
食料品	953		98.2	513		53.8
軽工業品	198,313	18.1	217.5	231,179	14.5	116.6
繊維品	150,354	13.7	212.7	168,329	10.4	112.0
繊維原料	14,158	1.3	31倍	8,295	0.5	58.6
糸類	43,754	4.0	224.5	39,349	2.4	89.9
織物類	62,584	5.7	234.6	76,400	4.7	122.1
繊維二次製品	29,858	2.7	102.7	44,284	2.7	148.3
非金属鉱物製品	17,554	1.6	235.5	20,830	1.3	118.7
陶磁器	11,092	1.0	5倍	9,706	0.6	87.5
その他の軽工業品	30,405	2.8	232.9	42,020	2.6	138.2
重化学工業品	862,844	78.8	228.9	1,337,335	82.2	155.0
化学品	109,599	10.0	256.9	176,177	10.8	160.7
金属品	513,805	46.9	326.1	586,809	36.1	114.2
鉄鋼	481,598	44.0	4倍	549,430	33.8	114.1
管・継手	102,550	9.4	178.8	297,164	18.3	289.8
非鉄金属	9,303	0.8	4倍	7,634	0.5	82.1
金属製品	22,904	2.1	128.7	29,746	1.8	129.9
機械機器	239,440	21.9	135.4	574,349	35.3	239.9
一般機械	149,479	13.6	118.1	323,006	19.9	216.1
電気機械	30,866	2.8	162.6	85,129	5.2	275.8
輸送機械	49,786	4.5	216.6	150,169	9.2	301.6
船舶	12,683	1.2	275.8	9,648	0.6	76.1
精密機械	9,309	0.8	112.9	16,046	1.0	172.5
再輸出・特殊取扱品	23,995	2.2	201.4	41,148	2.5	171.5

(1,000ドル、%)

1 9 7 6			1 9 7 7		
金 額	構成比	対前年比	金 額	構成比	対前年比
2,251,894	100.0	138.5	1,933,877	100.0	85.9
22,081	1.0	137.8	15,443	0.8	67.1
444		86.5			
198,619	8.8	85.9	286,584	14.8	145.1
141,875	6.3	84.3	201,348	10.8	141.9
8,204	0.4	98.9			
27,719	1.2	70.4	52,045	2.7	187.8
60,440	2.7	79.1	79,267	4.1	131.1
45,512	2.0	102.8	64,534	3.3	141.8
17,986	0.8	86.3	23,569	1.2	130.3
6,739	0.3	69.4			
38,758	1.7	92.2	61,667	3.2	164.5
1,969,663	87.5	147.3	1,581,499	81.8	80.3
149,882	6.7	85.1	153,697	7.9	102.7
1,121,972	49.8	191.2	638,253	33.0	56.9
1,062,176	47.2	193.3	550,459	28.5	51.8
688,820	30.6	231.8	361,941	18.7	52.5
16,513	0.7	216.3	16,185	0.8	98.0
43,283	1.9	145.5	71,609	3.7	163.7
697,808	31.0	121.5	789,550	40.8	113.1
473,462	21.0	146.6	554,355	28.7	117.1
71,191	3.2	83.6	89,548	4.6	129.3
138,269	6.1	92.1	126,267	6.5	91.4
38,275	1.7	396.7	64,439	3.3	168.4
14,886	0.7	92.8	19,380	1.0	115.3
61,087	2.7	148.5	49,786	2.5	81.5

(出所 通商白書)

日 本 の ソ 連 か ら の 輸 入

(第2表)

	1 9 7 4			1 9 7 5		
	金 額	構成比	対前年比	金 額	構成比	対前年比
輸 入 総 計	1,418,143	100.0	131.6	1,169,618	100.0	82.5
食 料 品	42,416	3.0	168.4	32,843	2.8	77.4
原 料 品	803,154	56.1	133.3	673,190	57.6	83.8
織 維 原 料	194,599	13.7	179.7	174,014	14.9	89.4
綿 花	189,645	13.4	182.9	171,118	14.6	90.2
金 属 原 料	56,407	4.0	116.5	54,551	4.7	96.7
鉄 鉱 石	13,860	1.0	85.6	21,835	1.9	157.5
鉄 鋼 く ず	30,314	2.1	114.3	12,392	1.1	40.9
非鉄金属鉱	12,233	0.9	214.1	20,325	1.7	166.1
その他の原料品	552,147	38.9	123.9	444,624	38.0	80.5
木 材	520,643	36.7	122.8	417,972	35.7	80.3
パ ル プ	6,993		124.0	654		9.4
石 綿	10,646	0.8	157.2	16,608	1.4	156.0
鉱 物 性 燃 料	213,236	15.0	186.7	228,848	19.6	107.3
石 炭	110,110	7.8	193.2	163,981	14.0	148.9
原油及び粗油	20,873	1.5	268.1	5,113	0.4	24.5
石 油 製 品	81,590	5.8	311.1	59,524	5.1	73.0
加 工 製 品	356,911	25.2	106.9	231,910	19.8	65.0
化 学 品	45,512	3.2	192.1	42,680	3.6	93.8
機 械 機 器	8,831	0.6	119.3	5,671	0.5	64.2
機 械 類	8,599	0.6	127.6	5,533	0.5	64.3
その他の製品	302,568	21.3	99.9	183,559	15.7	60.7
銑 鉄	10,007	0.7	54.1			
非銑金属	272,015	19.2	102.9	161,847	13.8	59.5
アルミニウム 及び同合金	31,909	2.3	142.0	28,645	2.4	89.8
再 輸 入 特 殊 取 扱 品	2,426		134.7	2,828	0.2	116.6

(1,000ドル、%)

1 9 7 6			1 9 7 7		
金 額	構成比	対前年比	金 額	構成比	対前年比
1,167,441	100.0	99.8	1,421,875	100.0	121.8
41,251	3.5	125.6	60,339	4.2	146.3
629,722	53.9	93.5	827,233	58.2	131.4
131,671	11.3	75.7	193,743	13.6	147.1
127,851	11.0	74.7	190,911	13.4	149.3
45,059	3.9	82.6	48,105	3.4	106.8
18,419	1.6	84.4	17,078	1.2	92.7
13,561	1.2	109.4	19,979	1.4	147.3
13,072	1.1	64.3	11,028	0.8	84.4
452,993	38.8	101.9	585,385	41.2	129.2
416,038	35.6	99.5	538,257	37.9	129.4
15,953	1.4	96.1	22,531	1.6	141.2
264,082	22.6	115.4	242,422	17.0	91.8
175,249	15.0	106.9	165,581	11.6	94.5
6,636	0.6	129.8	6,288	0.4	94.8
81,853	7.0	137.5	70,363	4.9	86.0
225,326	19.3	97.2	281,105	19.8	124.2
31,599	2.7	74.0	35,080	2.5	111.0
7,395	0.6	130.4	14,818	1.0	200.4
7,229	0.6	130.7			
186,332	16.0	101.5	231,207	16.3	124.1
151,731	13.0	93.7	188,459	13.3	124.2
48,421	4.1	169.0	85,057	6.0	175.7
7,061	0.6	223.9	10,776	0.8	152.6

(出所 通商白書)

日ソ貿易商品別単価の推移

(第3表)

(1972=100)

	品名	1972	1973	1974	1975	1976
日本からソ連への輸出単価 α	毛糸	100.0	138.8	190.3	158.7	223.7
ソ連の日本からの輸入単価 β		100.0	125.9	175.3	144.5	201.3
α	人絹糸	100.0	132.1	215.1	199.9	213.1
β		100.0	119.2	186.0	177.2	191.4
α	合織成織物	100.0	119.6	152.6	119.7	138.5
β		100.0	100.1	123.0	103.6	140.6
α	管	100.0	122.8	213.0	377.9	161.1
β		100.0	112.7	200.0	411.7	195.8
α	ブリキ	100.0	119.0	192.5	232.3	188.1
β		100.0	111.2	168.1	201.6	169.1
ソ連から日本への輸出単価 α	石炭	100.0	95.8	173.8	254.1	267.0
日本のソ連からの輸入単価 β		100.0	106.6	172.8	266.1	284.2
α	原油	100.0	132.0	373.1	332.3	413.7
β		100.0	126.8	347.9	348.8	372.4
α	鉄鉱石	100.0	91.4	111.6	169.0	205.5
β		100.0	103.8	119.2	149.2	144.5
α	アルミ	100.0	100.0	171.0	131.6	
β	ニウム	100.0	109.5	164.8	162.9	
α	原木	100.0	155.0	229.9	172.9	167.3
β		100.0	162.9	220.5	186.8	178.8
α	綿花	100.0	92.8	187.9	139.2	143.8
β		100.0	104.2	191.0	186.5	156.5

(出所) ソ連貿易統計年鑑、通商白書

日ソ貿易商品別単価の対前年変化率

(第4表)

	品名	1973	1974	1975	1976
日本からソ連への輸出単価①	毛糸	138.8	137.1	83.4	141.0
ソ連の日本からの輸入単価②		125.9	139.2	82.4	139.3
①	人絹糸	132.1	162.8	93.0	106.6
②		119.2	156.1	95.3	108.0
①	合成繊維布	119.6	127.6	78.5	115.7
②		100.1	122.8	84.2	135.8
①	管	122.8	199.0	177.4	42.6
②		112.7	177.5	205.9	47.5
①	ブリキ	119.0	161.7	120.7	81.0
②		111.2	151.2	119.9	83.9
ソ連から日本への輸出単価①	石炭	95.8	181.5	146.2	105.1
日本のソ連からの輸入単価②		106.6	162.4	154.0	106.8
①	石油 (重油)	132.0	282.4	89.1	124.5
②		126.8	274.3	100.3	106.8
①	鉄鉱石	91.4	122.1	151.4	121.6
②		103.8	114.8	125.1	96.9
①	アルミニウム	100.0	171.0	77.0	
②		109.5	150.6	98.8	
①	原木	155.0	148.2	75.2	96.8
②		162.9	135.4	84.7	95.7
①	綿花	92.8	202.5	74.1	103.2
②		104.2	183.3	97.7	83.9

(出所) 第3表と同じ

対輸出単価のドル建て・円建て比較

(第5表)

品名	単位	1976	1977	対前年比%
毛糸	ドル / M T	8,793	8,565	97.41
	100円 / M T	2,583	2,356	91.21
合成繊維織物	ドル/1,000 S M	1,179	1,112	94.32
	円 / S M	349	305	87.39
メリヤス・ クロセ編物	ドル / M T	5,459	5,924	108.52
	1,000 / M T	1,611	1,625	100.87
塩化ビニール 樹脂 (原料)	ドル / M T	648	639	98.61
	1,000 / M T	193	170	88.08
棒形鋼	ドル / M T	207.8	255.3	122.86
	1,000 / M T	50.5	41.8	82.77
ブリキ	ドル / M T	424.7	442.0	104.07
	1,000 / M T	126.7	120.9	95.42
鋼管	ドル / M T	458.8	484.0	105.49
	1,000 / M T	136.0	132.8	97.65

(出所) ソ連東欧貿易月報、1978.4より

対ソ輸入単価の推移

(第6表)

(ドル建て・円建て)

品目	単位	単 価			対前年比	
		1975	1976	1977	1976	1977
綿 花	ドル / M T	1,468.2	1,232.0	1,725.5	83.91	140.06
	1,000円 / M T		366.5	468.1		127.72
鉄鋼くず	ドル / M T	107.8	91.6	76.4	84.96	83.50
	1,000円 / M T		27.0	20.6		76.30
木 材 (丸太)	ドル / C M	52.9	50.6	60.5	95.71	119.65
	円 / C M		14,988	16,342		109.03
原料炭	ドル / M T	51.9	55.4	55.0	106.78	99.33
	円 / M T		16,447	14,872		90.42
鉄 鉱 石	ドル / M T	17.6	17.0	17.6	96.87	103.64
	円 / M T		5,077	4,806		94.63
重 油	ドル / K L	82.1	87.6	98.3	106.76	112.15
	円 / M T		26,387	26,885		101.89
白 金	ドル / K G	4,994	4,932	5,033	98.76	102.05
	1,000円 / K G		1,462	1,358		92.89
アルミ塊	ドル / M T	671.3	704.1	928.8	104.90	131.90
	1,000円 / M T		208.2	254.4		122.19

(出所) 第5表と同じ

商 品 別 ル ー プ ル 対 ド ル 相 場

(第7表)

	品 名	1 9 7 2	1 9 7 3
日本からソ連への輸出単価 ①	毛 糸 (MT)	3,930	5,455
ソ連の日本からの輸入単価 ②		3,225	4,061
②÷① (1ドル当りルーブル)		0.821	0.744
① (ドル)	人 絹 糸 (MT)	1,255	1,658
② (ルーブル)		1,031	1,229
②÷①		0.822	0.742
①	合 成 繊 維 布 (KSM)	846	1,012
②		1,486	1,488
②÷①		1.757	1.470
①	管 (MT)	285	350
②		213	240
②÷①		0.747	0.686
①	ブ リ キ (MT)	226	269
②		188	209
②÷①		0.832	0.777
日本のソ連からの輸入単価 ①	石 炭 (KMT)	19,497	20,782
ソ連から日本への輸出単価 ②		13,032	12,484
②÷① (1ドル当りルーブル)		0.668	0.601
① (ドル)	石 油 (?)	23,529	29,837
② (ルーブル)		15,416	20,349
②÷①		0.655	0.682
①	鉄 鉱 石 (KMT)	11,777	12,230
②		3,501	3,201
②÷①		0.297	0.262
①	アルミニウム (MT)	412	451
②		335	335
②÷①		0.815	0.743
①	原 木 (KCM)	28,293	46,078
②		17,743	27,507
②÷①		0.627	0.597
①	綿 花 (MT)	787	820
②		655	608
②÷①		0.832	0.741

1974	1975	1976	
7,480	6,237	8,793	(注)
5,652	4,660	6,491	㉑欄はドル建て
0.756	0.747	0.738	㉒欄はルーブル建て
2,699	2,509	2,675	㉑欄はドル建て
1,918	1,827	1,973	㉒欄はルーブル建て
0.711	0.728	0.738	
1,291	1,013	1,172	ドル対ルーブルの相場
1,828	1,539	2,090	1971年まで… 1ドル = 0.9ルーブル
1.416	1.519	1.783	1972 … 1 = 0.824
607	1,077	459	1973 … 1 = 0.7435
426	877	417	1974 … 1 = 0.7567
0.702	0.814	0.908	1975 … 1 = 0.721
435	525	425	1976 … 1 = 0.754
316	379	318	(出所)
0.726	0.722	0.748	ソ連東欧貿易月報
33,696	51,886	55,410	ソ連貿易統計年鑑
22,655	33,117	34,799	通商白書
0.672	0.638	0.628	
81,854	82,078	87,625	
57,511	51,235	63,770	
0.703	0.624	0.728	
14,042	17,566	17,023	
3,908	5,916	7,194	
0.278	0.337	0.423	
679	671	704	
573	441		
0.844	0.657		
62,375	52,861	50,592	
40,785	30,677	29,684	
0.654	0.580	0.587	
1,503	1,468	1,232	
1,231	912	942	
0.819	0.621	0.765	